

1 ピックの基礎知識と持ち方

⇒ピックの種類と持ち方から学ぼう!

はじめに

みなさんはピック弾きにどんなイメージをお持ちだろうか？ 世間ではピック弾きと言うと、なぜか“初心者向け”“ロック限定”、はたまた“ギターからの転向者”のように、なんだか否定的なイメージが付きまとい、肩身の狭い思いをしているピック弾きベース

トも少なくない。しかし、実はリズムのオモテとウラがつかみやすかったり、高速フレーズも楽に弾けたりと、ピックならではのメリットも多いんだ。また、指弾きベースストに敬遠されがちなピック特有のブライتنا音も、ちょっとした工夫で減らすことができるし、

それを逆にとれば、ピックならではのサウンドも出せるということ。ここでは、そんなピック弾きに特化して勉強していきたい。ひとりでも多くのピック・ベースストの地位が向上することを、筆者は願ってやまないものである。

ピックの種類～自分に合ったピックを選ぶには？

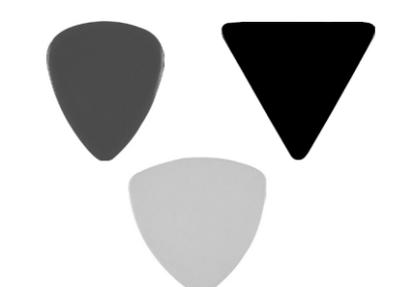
さて、まずは“ピックの種類”から紹介しよう。楽器店に行くとありとあらゆるピックがあって面食らうけど、ベースでもおに使われるのは“正三角形型(トライアングル)”“オニギリ型”、そして“ナミダ型(ティアドロップ)”という3種類【写真】だ。前者ふたつは比較的大型だからしっかりした音が出しやすく、また握りやすいのでピックを落としにくい。そして小さい後者は細かいフレーズを弾いたり、微妙なニュアンスをつけたりするのに向いていて、何と言っても“指の感覚に近い”というのがメリットである。また、変わり種としてポール・マッカートニーがホームベース型の小さいピックを使っているが、これはナミダ型の一つと考えればよい。

しっかりした音を出すには硬ければ硬いほど有利だ。反対にある程度柔らかければ細かいニュアンスはつけやすくなるが、実際は太いベース弦の大きな抵抗に負けないように、ヘヴィやエクストラ・ヘヴィといった硬めのピックを使う人が多いようだ。

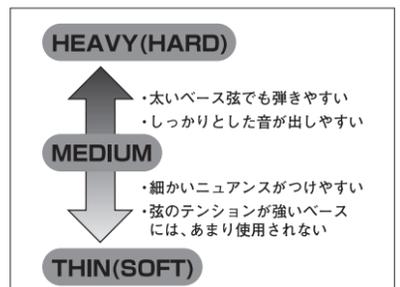
材質にもいろいろな種類があるが、定番はセルロイドとナイロン。一般にセルロイドは明るい音色で、ナイロンはくもった音色という傾向があり、持ったときのすべりにくさではナイロンにやや軍配が上がる。ただ最近ではすべり止めのついているピックもあるので、機会があれば試してみてほしい。誤ってピックを落とす機会も減るので、“ピックを落としそうだ”という人にはバッチリだろう。

一体どんなピックを選べばよいのだろうか？ 本来は自分の出したい“音色”を中心に考えるべきなのだが、初めてピックを持つとなると贅沢も言ってもらえない。そこで、今後自分に向いているものが見つかり次第チェンジしていくという前提で、まずは“オニギリ型で、硬さはヘヴィ”のピックをおすすめしたい。それはなぜかという、まず正三角形型だと大きすぎて弦に引っかかる感じがしてしまうのと、ナミダ型などの小さいピックや柔らかいピックでは、握るのに力を入れる変なクセがついてしまう可能性があるからだ。ちなみに材質はすべりにくさを重視するなら断然ナイロンだが、弦に当たる感覚を重視したいという人ならセルロイドのすべり止め付きでもOKだ。

では、そういった多くの種類のなかから、



左上がナミダ型(ティアドロップ)、右上が正三角形型(トライアングル)、下がオニギリ型だ。この3つがピックの主流と言える。



形と同様に、硬さ/柔らかさについてもさまざまな種類のモノがある。それぞれ音や弾き心地が変わってくるので、いろいろと試して好みのモノを見つけよう。



ピックの形の違いによるメリット/デメリットは上のとおりだ。こちらも音や弾き心地に大きな影響があるので、自分に合ったものを探してみよう。

ピックの握り方～基本フォーム

ピックの持ち方だが、一般的には軽く曲げた人差し指と親指で挟み、しかも人差し指は指の腹ではなく、やや親指側の側面に近いところ

で持つのがポイント【図1、2】。こうすることによってピックが安定して“手首を使ってピッキングする感覚”がつかみやすくなるんだ。

また、ピックを浅く持ちすぎると弦の抵抗に勝てなくなるので、まずはやや深めに持ってブリッジ寄りをピッキングすることから始め

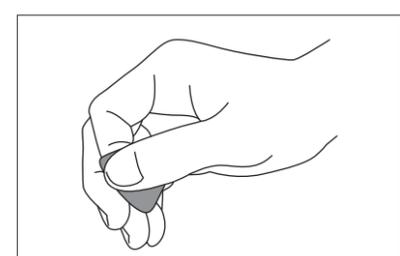
てみよう(このほうが弦振動が少ないので、弾きやすいはずだ)。ちなみに残り3本の指は開いていても閉じていても、とにかくリラックスできていればOKだ。

このときのヒジと手首の使い方が、なるべく手首のみを使って小さな弧を描くようにしたほうがピッキングが安定しやすい【図3】。長い時間ベースを弾いても疲れないようにするためにも、ヒジから大きく動かすのは避け

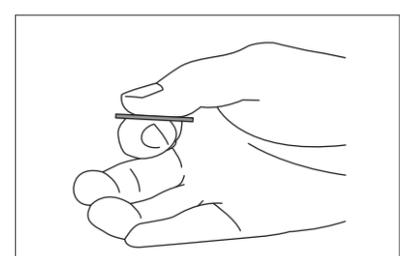
たいところだ。そして手首は軽く内側に曲げておく。また感覚としては、手が先行して、ピックの先端は遅れて弦に当たる感じのほうが、なめらかにピッキングしやすいということも覚えておこう。

そして、実はピックを弦に当てる角度というの音色に大きな影響がある。基本的にはピックと弦が平行に当たれば太い音を出すことができるし【図4】、逆に斜めに当たれば“ガ

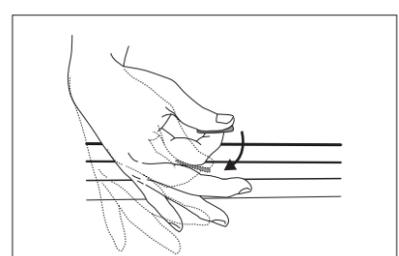
リッ”というノイズが大きくなるんだ【図5】。ちなみに、ベーススト/プロデューサーの佐久間正英さんが推奨する佐久間式ピッキング【図6】などは、一見するとトリッキーに見える。でも、ベースを構えたときはヘッドが上向きになっていて、弦も斜めになっていることを考えるとほぼ平行にピックが当たることになるので、これなら太い音が出ることも間違いなしだよね。



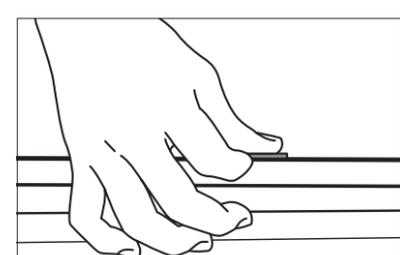
【図1】ピックは人差し指の側面と親指で、軽く挟むようにして持つのが基本。こうすることによってフォームが安定する。



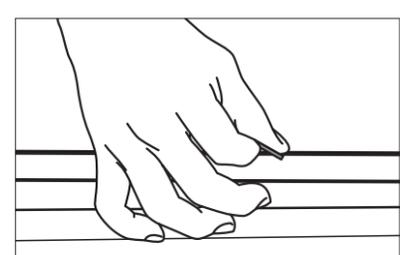
【図2】図1を真横から見るとこうなる。人差し指の側面がピックに当たっているのがわかるだろう。慣れるまではちょっと違和感があるかも？



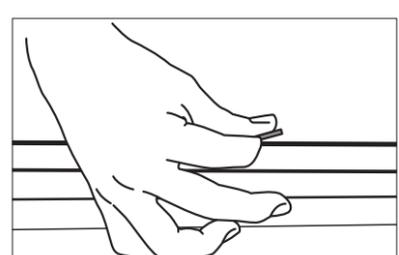
【図3】ヒジはなるべく動かさずに、手首のみを使って弾くようにしよう。小さな弧を描くように動かすのがポイントだ。



【図4】ピックと弦が平行に当たるようにするのが理想だ。このほうがノイズが目立たず、太い音が出しやすい。



【図5】手首を外側に向けて弾くと“ガリッ”というピッキング・ノイズが大きくなる。派手に聴こえる音だが、芯のある音は得られにくいかも。



【図6】通称“佐久間式”と呼ばれる、逆アングル・ピッキング。立って弾いているときでも、ピックを弦に平行に当てやすい。

[TRACK 74]

CD TRACK 74 Let's play! Pick Style
試しにフレーズを弾いてみよう!

上で解説したピッキングのフォームに気をつけて弾いてみよう。最初はピッキング・ノイズが出てしまうかもしれないけど、まずは正確に弦をヒットすることを目標にしたい。これができるようになってきたら、左手でミュート(=弾いていない弦を鳴らさないために、余った指で軽く触れておくこと)ができるようにも工夫してみよう。使っていない右手の3本の指をミュートに使うのもアリだね。最終的には、後半の開放弦のパートもしっかりとミュートして弾けるようになれば合格だ!!

PART 1 2フィンガー達人への道
 PART 2 どことんスラップ主義
 PART 3 ちょとびびりピック弾き
 PART 4 低音理論のオハナシ
 PART 5 ベース機材の大辞典
 PART 6 べつておきたいベースのヒ・ミ・ツ